関西理学療法学会　一日研修会　デイセミナー第 3 講

『体幹の運動器疾患の評価とアプローチ』

鉢嶺医院リハビリテーション科
池田幸司
六地蔵総合病院リハビリテーション科
藤本将志

体幹の運動器疾患患者では、姿勢保持に働く腰背筋群や腹直筋、内・外腹斜筋などの機能障害が、左右差を有しながら多発的に生じやすく、これに伴い体幹の可動性が減少したり、不安定性が増強したりすることで、様々な基本動作に実用性低下をきたす。このような患者の歩行動作を観察した場合、体幹の非対称性や前傾姿勢など、正常とは異なった体幹の動きが生じやすい。動作観察のなかで、体幹の異常な動きに気付けたとしても、骨盤・腰椎・胸椎レベルでの詳細な運動を観察し、これを運動学的に表現することは難しい。また、下肢や上肢との関係性も考慮しながらの体幹の動作分析に難渋する場合も多い。

今回、体幹の運動器疾患患者において、歩行動作に関する主訴の症例を提示させていただく。症例の歩行動作について、トップダウン評価にて動作分析を展開していくなかで、機能障害レベルで問題点を予測した。このとき、骨盤・腰椎・胸椎レベルでの体幹の運動に着目しつつ、体幹に問題が生じる前後の時期や、体幹以外の問題点にも着目しながら評価とアプローチをおこなったことで、歩行動作の改善に至ったため、その過程について解説する。